

経営比較分析表（平成29年度決算）

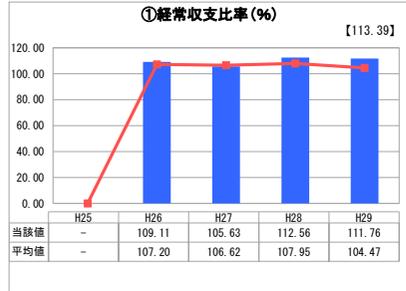
長野県 御代田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	81.21	47.84	3,132	

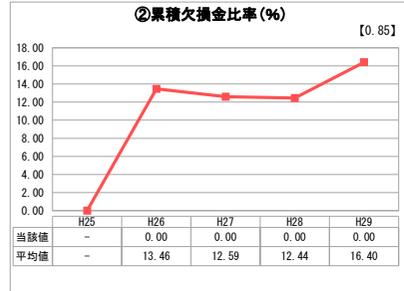
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
15,542	58.79	264.36
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
7,449	30.00	248.30

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

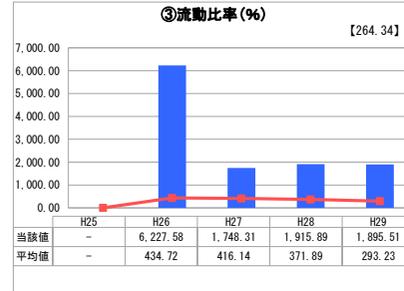
1. 経営の健全性・効率性



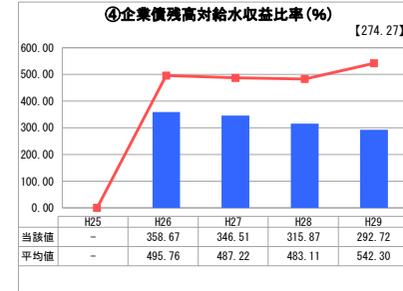
「経常損益」



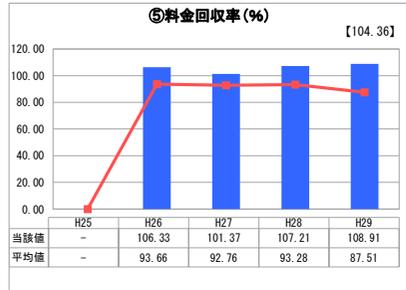
「累積欠損」



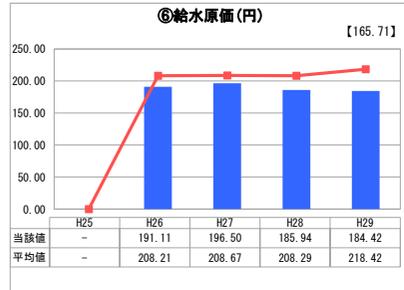
「支払能力」



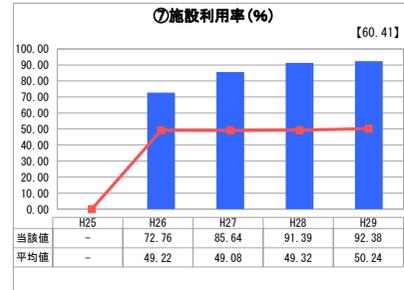
「債務残高」



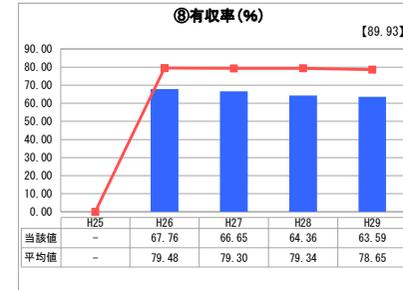
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

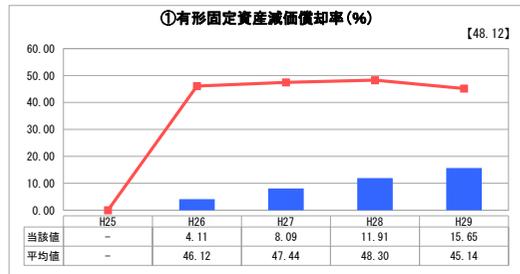


「施設の効率性」

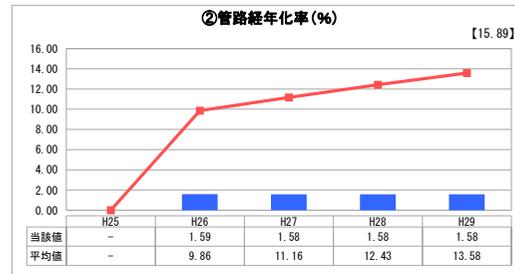


「供給した配水量の効率性」

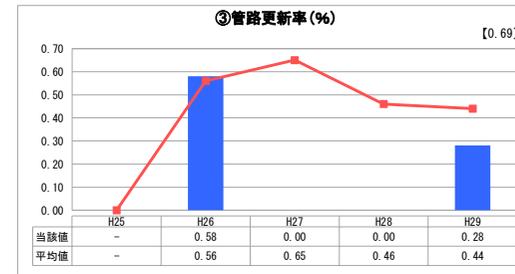
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超えており、企業債残高の減少により企業債残高対給水収益比率も低下している。また、流動比率も平均値を大きく上回っていることから平成29年度は健全な経営であることがうかがえる。経常収支比率、給水原価も平均値より良好な数値となっている。ただし、施設利用率が向上しているがこれは有収率低下の影響と考えられる。有収率は全国平均を大きく下回っており、前年度より低下もしている。有収率の低下は経営を圧迫する要因となるため、漏水調査・修繕等を行い有収率の改善を図る事が重要である。

2. 老朽化の状況について

管路経年率を見ても法定耐用年数を経過した管路の割合はまだ高くなってはいない。しかし、管路更新率は低く、布設年度が近い管路が多いため今後急激に管路経年率が上昇することが見込まれる。そのため、計画的に施設の更新を行っていく必要がある。

全体総括

現在の経営状況は良好といえるが、有収率の向上や施設の計画的な更新など、投資を行う必要性が高まっている。そのため、経営戦略や公共施設総合管理計画などの長期的な計画を策定し、計画的な更新を行うとともに、全体の費用から料金水準を含め適切な収支バランスを検討していくことで、健全な経営を継続できるよう努めていく。今後は施設の老朽化が始まるため、更新工事を進めていくことになる。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。